

2014

平成 26 年 6 月発行

日本山岳会千葉支部



千葉支部だより

発行者 諏訪吉春

編集者 吉野聰

(第27号)

2 0 1 4 年 度 通 常 総 会

海 外 山 行 は 台 湾 「 玉 山 」

「山の日」を県民運動として記念イベント

公益社団法人・日本山岳会千葉支部の2014年度通常総会が5月17日、千葉市内で開かれた。支部会員総数94人のうち31人が出席。18人から委任状の提出があり支部規約により総会は成立。あいさつで諏訪吉春支部長は「高齢社会の影響なのか山岳会も会員数が伸び悩んでいる。楽しい企画を打ち出し支部会員数を3ケタまで増やしたい」と述べた。



今年2月に亡くなった前事務局長豊倉さと子さん、矢野賢二さんに黙とうを捧げた後、13年度事業報告及び収支報告と決算関係書類の監査報告、14年度事業計画案及び収支予算案などの議案について審議し、いずれも原案通り可決。

昨年に続き海外遠征を盛り込み、台湾「玉山」登頂が決まった。また、国民の祝日「山の日」を盛り上げるため、6月に県立中央博物館で記念シンポジウム、11月には南房総の富山でネイチャーハイキングを実施する。

＝関連記事、総会出席者氏名は2面、記念講演要旨は3面に掲載＝

会員・会友名簿を作成へ

第7回通常総会は、午前10時からJR千葉駅に近い京葉銀行文化プラザを会場に、谷内事務局長の司会で始まった。竹島監事が監査報告。議案審議の質疑では「会員数が伸び悩んでいるというが、例えば『あの人も会員だったのか』『この人も…』という名簿でもあれば、そういう会員を頼って入会者が増えるかも知れない。そういう努力をしていかないと支部の活性化にはなかなか繋がらないのでは」という質問があった。

これに対し、執行部から「まったくその通り。個人情報念頭に置きながら現在、会員と会友の名簿作製の準備をしている」と回答があった。

また印刷したばかりの「房総半島分水嶺踏査報告書」が出席者に配られた。

南井英弘さんの講演「私のヒマラヤ」

議事に引き続き、南井さんの記念講演に移った。1958年に関西大学を卒業。同年、丸善石油(現コスモ石油)に入社し、2004年に退職後も毎年、ヒマラヤ通いに情熱を燃やす。今回は三木副支部長が聞き手役になる対談形式で行われ、クレバス帯のスノーブリッジ通過など生死にかかわるような興味深いヒマラヤの話に予定時間をオーバーした。

(総会出席者氏名)

小澤けい子、黒田正雄、坂上光恵、櫻田直克、佐藤明夫、塩澤厚、篠崎仁、新村貞夫、鈴木美代、諏訪吉春、高橋琢子、高橋正彦、竹島正義、谷内剛、田代貴征、津田麗子、浜口欣一、三木雄三、南井英弘、柳下忠義、安間繁樹、山口文嗣、山崎完治、山本哲夫、結城純一、湯下正子、吉永英明、渡邊信一、折田幸一、梶田義弘、田代治子。(敬称略)



和やかに「美弥和」の懇親会

午後からの懇親会は千葉公園に近い会友の経営する和食店「美弥和」で。顧問の篠崎さんが乾杯の音頭。各サテライトの話題やグループ毎による山の話などが次々に飛び出し、和やかに。窓から見える外の光景はまだ明るいが、お酒の勢いも加わり「来年はヒマラヤへ行こう」の声も…。本部監事の吉永さんの中締めまで、会員・会友相互の楽しい集いは延々と続いた。(三木雄三)



記念講演会「私のヒマラヤ」

講師 南井英弘会員(千葉支部)

大学山岳部員だったちょうど60年前、星を眺めながらコメを洗い、薪を燃やして炊事をしていた頃にふと戦前のイギリス隊が行ったヒマラヤ遠征報告が目に残った。「ご主人さま、おはようございます。温かいお茶をどうぞ…」。シェルパが隊員のテントを開け、熱い紅茶を運んできた場面だ。

なんと優雅なことだ。俺もいつか行くぞ。これがヒマラヤを目指すきっかけになった。

卒業後は石油会社に入社したが、入社半年で大阪本社から東京支社へ異動になった。仕事は何と「黒部ダム」現場への油の売り込みだ。米国系の石油が圧倒的な時代の中で、国産の油を売り込むのは至難の業。どうするかを考えた末、「そうだ、現場に寝泊まりするぞ」。そこは山岳部育ち。11月から大町の扇沢の工事現場に泊まり込んでの売り込みという誰も考えもしなかった作戦が功を奏し、見事国産の油に切り替えることに成功した。

そして70年に会社が海外で石油の掘削権を手に入れると、志願してアブダビに赴任した。海外勤務は6ヶ月働くと2週間の休暇があった。休みになるとまずはアルプスへ行き、グリンデルワルド、ツェルマット、シャモニーなどでトレッキングを楽しんだ。30歳直前で結婚、家族を呼び寄せた。家族持ちは1年働けば1ヶ月の休みが取れたからだ。74年、アブダビでの勤務を終えて帰国の途中にネパールへ立ち寄った。テントを持って

ゴーキョへ行った時のことだった。テントが開けられ、熱いお湯が運ばれてきた。「あの時読んだ報告での光景がそのままだった」。嬉しかった。

めぐり合わせとは不思議なもので、78年の第2次オイルショックでは、石油の買い付けでアラブへ。今度もまたアルプスへ出かけ、モンブラン、モンテローザ、マッターホルンなどに登りまくった。

81年にはパキスタンに入った。定年間近から会社の仲間などを連れ、リーダーとしてヒマラヤに通ったが、K2やブロード・ピーク、ガッシャブルムⅠ、Ⅱ峰などに囲まれたバルトロ氷河とゴンドコロ峠越えで猛吹雪。仲間が危機一髪。「死を覚悟した」という。

これを契機に「一人の方が楽だ」と単独登山に切り替え、08年はチュルー最東峰(6038m)、09年はタシ・カン(6386m)、そして昨年はメラ・ピーク(6651m)に登頂した。12日間毎日、雨か雪が降っていた。凍てついた斜面を歩み続け、力が尽きかけそうになり、どうにか生還できたと振り返る。

「千葉支部でもヒマラヤへ行けますか」の問いに南井さんは、「どこの山でも同じですが、『行きたい』と百回言っても行けません。大事なことは、自分で行く決心をして実行すること。自分が決断しないで、他の人に『行かないか』と働きかけても誰も腰を上げません」と、きっぱり。

雪の高峰山と黒斑山に登る

柳川しげよ

3月8日、高峰高原ホテルに参加者が集まった。今日は高峰山に登る。12時45分に登山開始。パウダースノーが気持ち良い。天候も味方してくれて、遠くアルプスの巨人たちが白く輝く。雪をかぶったシャクナゲも、よく見ると花芽が膨らんでいる。「花の季節にもう一度来たいな」、そう思った。

今夜の宿は日大ワンゲル部の山小屋だ。山岳部の山小屋とはいっても水洗トイレまで完備。思っていたイメージが吹き飛んだ。

「わが家より立派なあー」。薪ストーブが暖かい。さあ、夕食。坂上さんと小澤さんが小諸の街で買い物を済ませておいてくれたおかげで、おいしい料理が出来上がった。男性陣も大喜び。

9日、目を覚ますと真っ青な空。早々に朝食を済ませ、黒斑山へ向かう。8時半に登山開始。歩き始めて間もなく、シラビソの林を抜けると北アルプスや富士山の大展望が広がった。さらに登る。トーマの頭に近づくと浅間山だ。まるでチ

ョコレートにパウダーシュガーをかけたようだ。「贅沢な眺めだなあー」。さらに登って頂上に着く。時々、白い噴煙を上げる浅間山。居合わせた登山者たちがカメラを向けている。そんな素晴らしい自然の中での昼食は最高。ゆでたまご、バナナがとても美味しかった。



10日は秘湯の天狗温泉に立ち寄り、赤褐色の湯につかって手足を伸ばした。「気持ちいいなあー」。外は粉雪が舞っていたが、ぽかぽかに温まった。

雪山の素晴らしい思い出が、また1ページできました。坂上リーダーのきめ細やかな配慮に感謝します。有難うございました。

期 日： 2014年3月8日(土)～10日(月)

参加者： 岩尾富士夫、小澤けい子、坂上光恵(L)、柳川しげよ、吉永英明、渡邊信一
(敬称略)

輝 く 春 ・ 木 ノ 根 峠

梶田義弘

春は房総が一番輝く季節だ。菜の花や桜はもちろん、白や黄色、ピンクの花々が、柔らかい日差しを浴びて咲き誇っている。午前9時37分、電車はJR内房線岩井駅に到着。ここは「南総里見八犬伝」ゆかりの富山の玄関口だが、今回は富山を左に見ながら海岸沿いに進み、木ノ根峠を目指す。

登山口に「旧木ノ根街道」とある。昔、房総の人々が交易で行き交った街道であるらしい。傾斜は緩やかだが、木の根っこが縦横に地表を覆い、足を引っかけてしまいそう。「木ノ根街道」とはよく付けたものだ。

正午ごろ、標高171メートルの峠に到着。少し登った冷水ピークで昼食を取った。視界を遮る樹木がなく、眼下には岩井海岸と青い海が広がり、はるか向こうに三浦半島が見える。雲がなければ富士山や南アルプスも見えたのに残念。

下山の途中、リーダーの三木さんが「道はここまでです」と叫ぶ。えっ、どういふことと驚いたが、確かに先に道がない。通る人がいないため、長い年月のうちに消滅してしまったらしい。竹ヤブをかき



分け、斜面を滑り降りて午後1時半ごろ、林道にたどり着いた。頭や服に付いた葉っぱをはたいて落とす。裏山の斜面で遊んだ子供の頃を思い出す。登山道が整備された百名山などとは一味違う、千葉の山ならではの面白さだ。

実は今まであまり花に興味はなかった。でも美しい花を見ているうちに、名前が分かればもっと楽しいだろうと思うようになった。どなたか、お薦めの植物図鑑があったら教えてください。

期 日： 2014年4月6日(日)

参加者： 岩尾富士夫(SL)、大浦陽子、小澤けい子、梶田義弘、黒田正雄、諏訪吉春、高橋正彦、高橋琢子、田代貴征、三木雄三(L)、柳下忠義、柳川しげよ・真希、山口文嗣、渡邊信一・すみ子 (敬称略)

コース： 岩井駅(9:50)ー小浦漁港(10:15)ー第1ベンチ(10:35)ー高崎公園(11:00)ー木ノ根峠(11:50)ー冷水ピーク着(12:00昼食)同ピーク発(12:35)ー無縁法界霊の石塔(12:55)ー林道(13:30)ー岩井温泉(14:10)ー岩井駅(14:55)。

海や富士山に大きな歓声

鋸山へ晴香園の子どもたちと

三木雄三

「見て、でっかい海だなあー」
...。胸を突くような登りに息を弾ませながら、子どもたちが歓声をあげた。伊豆大島、天城連山、真っ白な富士山、そして東京湾の沖にツンと伸びる富津岬が、春霞の向こうに浮かんで見えた。

「あの観光船のそばに見えてる駅から、ずっと歩いてきたの...」と女の子。そんな声に目をやると、フェリーが白い航跡を残して港を出ていった。

恒例となった晴香園の子どもたちとのハイキング。今回は鋸山。尾根コースを選び、観月台からの眺めや石切場跡を見て、垂直の絶壁階段から展望台を目指す。このコース、最初から急な階段の連続だが、足元のスマレや頭上のツバキ、ウグイスの鳴き声に励まされて歩く。

展望台からいったん戻り、日本寺北口から境内に入る。大きな百尺観音に圧倒。



いよいよ地獄のぞきへ。ここでお待ちかねのランチタイム。「唐揚げおいしいよ」と男の子。空にはトンビが旋回している。

「みんなのお弁当を狙っているから気を付けて」と谷内さん。さすが元青少年相談員だけあって細やかな気遣いだ。

初参加の柳川真希さんは「素晴らしい景色に感動。また歩きたい」と話す。のんびりした昼下がり。日本一の大仏や千五百羅漢などを見ながら保田へと下る。午後の陽ざしがキラキラ波間に輝く暖かな春の一日だった。

期 日：2014年3月23日(日)

参加者：晴香園 生徒5人、職員2人

谷内剛(L)、高橋正彦(SL)、梶田義弘・天兵、香高真奈美、船木元、高橋琢子、三木雄三、柳下忠義、柳川しげよ・真希、結城純一、渡邊信一・すみ子 (敬称略)

コース：浜谷谷駅(9:50)―観月台(10:15)―展望台ピーク(11:05休憩)―

地獄のぞき(12:05昼食)―大仏広場(13:25見学)―保田駅(14:35)。

投 稿

リーダーシップとメンバーシップ

高橋正彦

私の高校時代の夢はヒマラヤ処女峰の初登攀でした。大学進学と同時に山岳部に入部したのもそれを叶えるためでした。しかし、その夢は学生時代には叶えませんでした。卒業し1970年の32才の時にヒマラヤ登山が解禁になり、当時の学生がヒマラヤ登山をしたいとコーチ会に上がり、OB会で承認され私は登攀隊長として参加することになりました。隊員は総勢10名、羽田空港には人生の先輩である学生の父兄が心配顔で私に倅をよろしく願いますと哀願されました。

羽田から機上の人となり、私は考えました。この学生を遭難させてはいけない。この登山は一に「安全」、二に「楽しく」、三に「そして余裕があったら登頂」と考えました。目指す山は許可された38峰ではなく、当時、在ネパールの宮原先輩がダウラギリ山塊に6、7000メートルの丁度良い無名峰の許可を取ってくれた山です。9月に出発し、カトマンズからダコタ機に3トンの荷を積み、ポカラから1週間のキャラバンでツクチェ村から本格的登山です。第2キャンプを建設終了時に、BCにいた隊員が高山病になり歩行困難となりました、私は躊躇なく、登山活動を中止し、全隊員でツクチェ村に降ろし、事なきを得ました。

しかし、そのために費やした1週間と隊員の体力消耗は大きく、登山を再開し、第3（アタック）キャンプから第一次アタック隊は登頂ならず、私はアタック要員ではありませんでしたが10月26日他3名で好天に恵まれ登頂することが出来ました。無名峰だったのでシタツツラ(6611メートル)と命名ネパール政府に届けました。半世紀を経た今日も交流が続いております。



SITA CHUCHURA (1970年10月26日、日大隊により初登頂) <2013年10月29日ヒドンバレーより竹花晃さん撮影>

今回の韓国でのフェリーの惨事を思い、リーダー（船長）の責任が如何に重いか感じて寄稿しました。

投 稿

休 暇 村 訪 ね て 1 0 周 年

幽 霊 会 員 脱 し た い

石井義光

千葉支部の会友として仲間に入れて貰ったのが2年程前。いまだ山行や各種集いに一度も参加していない。言わば「幽霊会員」です。その幽霊会員に投稿する資格など無いのですが、友人の吉野氏からの依頼なので断れずペンをとった次第です。



海の近くで育ったのに、子供の頃から何故か山に魅かれていた。(泳ぎは人並みに出来る)それを決定付けたのは15歳の夏に挑戦した富士登山だったと思う。現在のように途中迄車で行ける便利さは無く、防寒具もみすばらしい物を纏っていたので、頂上で体験した寒さは強烈だった。それでも御来光の感動と登りきった達成感は様々の苦しさを差し引いても余りがあり、その余りを求めて新宿駅中央線 23:55 発の松本行に乗車する週末は楽しい青年時代だった。

お金と時間が許す範囲での経験しか無いが、近頃はその時間を作るのに苦慮している。家族中心で営むサービス業は休みを取りにくい日々だ。でもどんなに忙しくても毎年6月の第1週目に実施する「休暇村」を夫婦で訪ねる旅は10年目となった。当然ながら海辺の施設は避け、山岳方面の休暇村が多い。妻は山登りが苦手なので露天風呂から山を眺める旅と言うのが正解かも。

“老夫婦だけの旅は危険”だと昨年から、近所の山好き主婦連が同行するようになり賑やかになった。写真は乗鞍岳方面の散策時だがここでも妻は体調を崩し、車で待機。今年も同じメンバーで6月1日から岩手山を中心に東北方面を訪ねる予定。震災の被害地にも足を運び、少しでも復興の役に立てればと思っている。

健康で過ごせる時間も少なくなっているが、露天風呂から山を眺める旅を続けると共に一日も早く幽霊会員を脱したい。その時は宜しくお願いいたします。

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

「豊倉先生と山岳会との出会い」

田代治子



豊倉さん(写真右)と茂原七夕で(昨年7月写す)

豊倉先生との出会いは遡ること26年ほど前になる。生後6か月の娘を預ける保育所で所長を務めておられたのが豊倉先生で、ここでの出会いの始まりだ。保育所での凜とした姿には、威厳さえ感じたことを記憶している。あれから20年、今度は職場の上司としての再会が私の山岳会千葉支部との出会いとなる。

私の母は長野県の出身。小さい頃の私は、母の実家に遊びに行くと、祖父の好きだった山野草や、山の花木の採集に出かけてはアルプスの山々や雪化粧した浅間山を眺めたりするのが好きだった。そのためかも知れないが、まだうら若き？娘時代でも同級生たちが追いかけるアイドルには興味が湧かず、心惹かれたのは岩をよじ登り、雪渓を歩く山男の姿だった。それでも『♪娘さんよく聞け～よ、山男にゃ惚～れ～るなよ～』の歌にもあるように、「山男にゃ惚れちゃいけないんだ！」の気持ちとともに加藤保男や長谷川恒夫の写真をお蔵入りにした。

結婚後、自分の時間を持てないままの日々に豊倉先生との再会。充実したプライベートを過ごす豊倉先生の勧めもあり、主人とともに会友として千葉支部へ仲間入りした。参加した上高地のスケッチ会、日光・光徳への山行では、人との出会いが私の生き方の幅を広げ、今の充実した余暇の楽しみ方を様々学ばせていただいていると感謝している。

でも、残念なことに如月の19日、山岳会への出会いをくださった豊倉先生は旅立たれた。

最後にお会いした会食の帰り道、振り返りながら名残惜しく別れたことが忘れられない。皆に姉御と慕われた先生はきっと天国でも山に登って「ヤッホー」と元気に歩いていることでしょうね…。

日本山岳会千葉支部は会員・会友を募集しています。

問い合わせ先

諏訪吉春

三木雄三

海外山行のお知らせ (台湾 玉山)

先年に引き続き、台湾の山に登ります。昨年は雪山3886メートルに全員登頂しました。

今年は最高峰の玉山3952メートルを計画します。初登頂は1900年に日本人によりなされた馴染みの深い山で、南アルプスに似て、歩きやすいルートです。登頂後温泉も予定しています。今回も台湾山岳協会の協力により実施します。奮ってご参加下さい。



期日：2014年10月7日～12日 (締切：2014年7月15日)

パスポートは当日の残存期間が、6か月以上必要です。

日程など詳細は判明次第、ご連絡します。

申し込み：岩尾 富士夫

サテライトからの報告

春の筑波山を楽しむ 四水会

会友の井上元さんが経営する和食の店「美弥和」のハイキンググループと支部サテライト「四水会」有志による合同ハイクが4月27日、新緑の筑波山で行われた。

同店の客や従業員、安全登山の指導役として四水会メンバーなど計37人が参加。貸切バスで筑波神社に向かい、名物「がまの油売り」を見学した後、ケーブルカー組とハイキング組に分かれ877メートルの山頂を目指した。途中、陽成天皇が「つくばねの峰よりおちる男女川、恋とつもりて…」と詠んだ(みなのがわ)源流で一休み。



湧き水を飲んで「美味しいなー」。足元のニンソウやカタクリ、頭上のヤマザクラを楽しんだ。

女体山からは関東平野や霞ヶ浦を一望し、滑りやすい斑レイ岩の岩場を注意しながら下山。茶屋跡分岐から筑波神社に戻った。

このハイキングで、2人から千葉支部会友への入会申し込みがあり、美弥和での反省会也大いに盛り上がった。

「山の日」を記念 千葉支部主催の公開シンポとハイク

千葉支部は「山の日」祝日法改正法が成立したことを受け、次の日程で「公開シンポジウム」を始めとする記念イベントを開催します。「山の日」を県民運動として盛り上げるためです。県立中央博物館や東京湾学会に共催、後援していただきました。ご参加ください。

「房総の山の魅力と富士山を語るつどい」

日時：6月29日(日)午前10時30分～午後4時00分

会場：県立中央博物館講堂(千葉市中央区青葉町955の2) 入場無料

主なプログラム

10:30 主催者挨拶

諏訪吉春(千葉支部長)

10:45 基調講演 「房総の山なみ」

小疇尚(明治大学名誉教授)

(休憩・昼食)

13:00 報告1 「房総の山の魅力とフィールド・ミュージアム」

大木淳一(中央博物館主任上席研究員)

13:30 報告2 「房総の分水嶺を歩いて、その秘境と富士の美」

山口文嗣(千葉支部山行委員長)

(休憩)

14:25 報告3 「房総の里山里海と富士山」

中村俊彦(中央博物館副館長)

15:10 総合討論「房総の山、里山、そして富士山へ」

コメンテーター

吉永英明(日本山岳会監事)

コーディネーター

三木雄三(千葉支部副支部長)

房総ネイチャーハイキング「名峰・富山を歩く」

(中央博物館共催・東京湾学会後援)

日時：11月8日(土)

場所：富山

山行：地理や植物等に詳しい博物館の学芸員と一緒に富山を歩き、山の自然を学ぶ。

当日は千葉駅午前7時45分発の内房線館山行に乗車、岩井駅下車。定員40人。

関連行事

東京湾学会公開シンポジウム「房総から望む富士山の自然と文化Ⅱ」

(日本山岳会千葉支部後援)

日時：6月8日(日)午後1時～4時15分

会場：県立中央博物館講堂(千葉市中央区青葉町955の2) 入場無料

講演内容：「房総から見た富士の姿」

「信仰対象としての富士山」

「富士山と房総の里海文化」

総合討論「房総人にとって富士山とは？」

お 知 ら せ

会員の消息

叙 勲

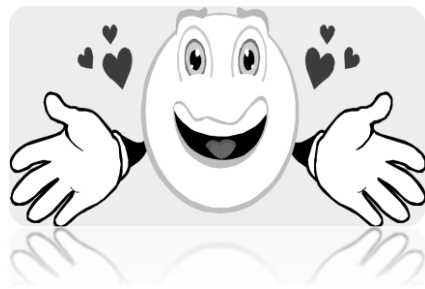
小疇尚会員(明治大学名誉教授)が春の叙勲で瑞宝中受賞を受賞されました。
心よりお祝いたします。

新入会員

柳川しげよ (やながわ しげよ) さん

新入会友

鈴木さち子(すずき さちこ) さん
遠山孝幸(とおやま たかゆき) さん
三田芳江(みた よしえ) さん
染谷博(そめや ひろし) さん
奥戸昌子(おくと まさこ) さん



寄 贈

吉永英明さんから図書、絵葉書等の寄贈がありました。切手マニア垂涎の記念切手もあります。 各40冊(セット)あり、希望者に無料頒布します。

- ①「ボタン ヒマラヤの自然と山」 (図書)
- ②「根雪 千葉大の山50年」 (図書)
- ③「根雪 ヒマラヤ」 (絵葉書)

(エベレスト、ローツェ、K2など9葉セット。 千葉大学山岳部撮影)

- ④「マナスル登頂50周年記念切手」(2006年9月1日のカトマンズの消印あり)

千葉支部だよりをカラー画面で

日本山岳会のホームページ(jac.or.jp)から、千葉支部だよりをカラーでご覧いただけます。

アクセスの手順

「公益社団法人日本山岳会」を開き、「日本山岳会の活動内容」から「支部」をクリック→「千葉支部」→「千葉支部だより一覧」と進んで下さい。

原稿募集

特集『夏山の思い出』を募集します。

今年の夏に登る山、かつて夫と登った山、彼女と風を感じた山、そして還暦記念に歩いた山…。そんな夏山の思い出を投稿して下さい。

9月号に『特集』として掲載します。

原稿は1000文字程度。写真1枚のほか、スケッチ、地図の添付も自由です

宛先 吉野 聡

役員会の報告

3月報告 2014年3月25日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、坂上、鈴木、諏訪、竹島、谷内、山口、山崎、結城、吉野（10名）
(敬称略、五十音順)

1 報告事項

- ・25年度支部会計報告 ・春山山行（高峰・黒斑山） ・晴香園引率登山（鋸山）

2 行事予定等

- ・山の日制定記念イベント（6月29日(日)県立中央博物館）

3 検討事項

- ・支部総会に向けて・支部山行実施要領について

4月報告 2014年4月22日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、小板橋、鈴木、諏訪、高橋、三木、安間、谷内、山口、山崎、結城、湯下、吉野（13名）

1 報告事項

- ・山行報告（木の根峠）

2 行事予定

- ・山行予定（大菩薩北尾根下降）

3 検討事項

- ・支部総会に向けて・山の日制定記念イベントについて

5月報告 2014年5月27日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、坂上、鈴木、諏訪、谷内、山口、山崎、結城、湯下、吉野（10名）

1 報告事項

- ・26年度支部総会（5月17日）報告 ・山行報告（大菩薩北尾根下降） 外

2 行事予定等

- ・山の日制定記念イベント

3 協議事項

- ・公益事業の推進について

編集後記

2016年から8月11日を「山の日」と定める祝日改正法が5月23日に可決・成立しました。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と明記されています。

千葉支部でも山の日制定記念イベントを開催しますが、一人でも多くの方々に山の日
の意義が理解されるような活動をしていく必要があります。支部だよりとして、その一助
を担うためにも会員・会友の皆様のご協力よろしく願いいたします。（S・Y生）

山 行 の 予 定

(7月以降、支部行事等含)

行 き 先	日 程	申 込 先	締 切	備 考
上高地散策 (初夏の風に吹かれて河童橋から徳沢そして横尾)	7/5 (土)～ 6(日)	結城純一	6/15(日)	写真とスケッチ山行 山 研 泊 (1 泊 3,000 円) 先着 10 名 7/4 (金) 夜出発 車
佐原「夏の大祭」	7/12 (土)	三木雄三	7/7(月)	四水会企画 ユネスコ遺産登録ノ ミネートを祝う
ビールパーティー サッポロビール千 葉ビール園 047-436-4388	8/9 (土) 17 時～19 時	谷内剛	7/26(土)	会費： 4,900 円 人員：先着 30 名 集合：J R 津田沼駅 16 時 無料送迎バス乗り場
台湾、玉山	10/7 (火) ～12(日)	岩尾富士夫	7/15(火)	関連記事 10 ページ
全国支部懇(埼玉 支部主催)	10/18 (土) ～19(日)	谷内剛	6/20 (金)	ナチュラルファーム 農園ホテル (秩父) 山域：①両神山 ②武甲山③低山ハイ ク 参加費 17,000 円
富山	11/8 (土)	三木雄三	10/31 (金)	詳細 11 ページ
荒船山	11/15 (土) ～16(日)	小澤けい子	10/24 (金)	募集人数 20 名

